

東日本国際大学 学長 吉村 作治 様

いわき短期大学 学長 田久昌次郎 様

平成 年 月 日

ふれあい出前講座 講師派遣依頼書

このことにつきまして、貴学の_____を講師として、
下記によりご派遣くださいますようお願い申し上げます。

記

団体名	
住所	
担当者連絡先	電話 担当者名
目的	
日時	平成 年 月 日() 午前・午後 時 分～ 時 分
場所	
受講対象者	
講話テーマ	
備考	

講座の内容	パンフレットからお選びください。(パンフレット掲載以外の内容でも講師を派遣いたしますので、ご相談ください)
受講対象者	小・中学校・高等学校の児童・生徒・教職員の皆さま、一般社会人の皆さまなど幅広くご利用いただけます。(全校集会・ホームルーム・教職員研修会・総合的学習の時間・公民館での集会など)
開催の日時	希望の日程、時間帯に対応します。
開催の場所	学校内、公民館など場所を問わず、ご指定の場所に向きます。
諸経費	講師料は無料です。諸経費はすべて本学が負担いたします。

<お問い合わせ>

東日本国際大学・いわき短期大学 入試広報課「出前講座」係

フリーダイヤル 0120-963-323 ファックス 0246-25-3372

東日本国際大学/いわき短期大学 〒970-8023 福島県いわき市平鎌田字寿金沢37

ふれあい 出前講座

— 2015～2016年 秋・冬号 —

高校生・地域の皆さんの知的好奇心を
サポートしたい・・・そんな思いから
高校生や地域の皆さんと大学を結ぶ
地域連携交流事業『ふれあい出前講座』

ご依頼があればどこへでも本学の
教職員がお邪魔して講座を開講します。

講演料等はいただきません。
どうぞご活用ください。



東日本国際大学・いわき短期大学 ふれあい出前講座2015 秋からのラインナップ

東日本国際大学 経済情報学部

コミュニケーション能力を高めるために	現代社会で最も必要とされる能力は「コミュニケーション能力」です。その能力向上のためには経験や訓練、技術の向上も大事ですが、何よりもコミュニケーションについて理解することが重要です。誰もが出来る当たり前のはずのコミュニケーションの能力向上が求められる背景にはこの理解不足があります。まずはコミュニケーションとは何かから考えましょう。
教授 福迫 昌之	
国際社会で本当に役立つ英語とは？	実際に役立つ英語を学ぼうとする機運は国際化の流れの中、ますます強まっていますが、本当にちゃんと相手にわかってもらえる英語を発信(書く・話す)している人はごく一部です。それは目先の会話訓練だけを過度に重視し、本当の英語基礎力の養成を疎かにしているからです。論理的に相手の文章・会話を理解し正しくわかりやすい発音で相手に返していくのが、本当のコミュニケーションです。本当の英語力を身に付けようとする英語学習者にとって必聴の講座です。
教授 倉田 貢	
地域スポーツのマネジメント	スポーツというとメジャーリーグやサッカー日本代表などトップレベルのものが大きな注目を集めます。しかし、スポーツの起源は「deportare(遊び・気晴らし)」にあり、決してアスリートだけのものではありません。市民のよりよいスポーツライフを実現するため、地域スポーツの現状と課題、そして今後の展望をお話します。
専任講師 岩村 聡	

いわき短期大学 幼児教育科

子どもとの出会いを温かく育む保育	保育は子どもとの「出会い」を、伝え合いの中で温かく育む豊かな営みです。保育者にしか味わえない保育の醍醐味を保育実践事例や子ども遊び体験を通してお手伝いいたします。保育者と子どもが共に作る美味しい毎日。あなたも一緒に味わってみませんか。
教授 鈴木まゆみ	
様々な音楽活動を通して遊んでみよう	自然界には様々な音が溢れている。その音の中で心が安らぐ音、とても不快に感じる音、心がわくわくする音、同じ音でも自分の精神状態でもまた違って来る。それだけに人間の精神に関わるほどの影響力をもっている。そのようなことを検証しながら、ピアノで、歌で、簡単な楽器を使って、ボディパーカッションで、様々な体験を通して、わくわくする気持ちを体験してみたいと思う。
教授 吉津恭子	
サンタクロースの 実在性 ～子どもの物語理解～	皆さんはサンタクロースが実在する人物だと、どの程度思っているのでしょうか？それは子どもの頃と比べて変わりましたか？本講座では、心理学の研究を軸に、子どもが、いつ・どのようにお話を理解し始めるのかを紹介いたします。そして、もしサンタクロースが実在しないと思っている人がいるならば、私たちの周りには気づかないだけでたくさんのサンタクロースが今も存在しているとお伝えしてみたいと思います。
講師 常深浩平	

東日本国際大学 福祉環境学部

生死の境界について考える	脳死ということばを耳にしたことがありますか。臓器移植はどうでしょう。これらはいずれも新しい生命技術の登場によって可能になったものですが、それによって、わたしたちは死や生について何を考えなくてはならなくなったのでしょうか。何をもちて生とし、何をもちて死とすればよいのでしょうか。明快な答えのできないこの難問に、皆さんとともに、挑んでみたいと思います。なお、この講座の主たる対象は高校生とします。
教授 本多創史	
地域で暮らす	私たちが生活している地域には介護や介助、子育てに関わることなど生活するうえで何らかの支援を必要とする人たちがいます。そうした人たちの問題は、「ごみ屋敷」、「虐待」、「孤立死」、「引きこもり」といったかたちで私たちの前に現れることがあります。問題や困りごとを抱えている人たちは、私たち一人ひとりと隣り合わせに生活している人たちかもしれません。「誰もが私らしく地域で暮らす」ことをテーマに、私たちが気づかないところでSOSのサインを出している人たちの抱えている問題、地域住民のつながりをつくり・支える様々な担い手の存在について学んでいきます。
准教授 新田さやか	
障害者アートの魅力 —見る・感じる・考える	近年、障害のある人による創作活動が様々な場面でなされるようになり、障害者のアートとして注目を集めています。そうした作品をみて、皆さんはどのような感想を抱くでしょうか。「障害者の」ということばによって、私たちの作品の感じ方は変わるのでしょくか。変わるのだとしたら、それはなぜなのでしょうか——。障害者アートをめぐる称賛や違和感の声を手がかりに、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。そこには、障害者アートの魅力と、私たちの生きる〈社会〉の問題が垣間みえることでしょう。
准教授 田中みわ子	



学校単位での大学見学も受け付けております。
詳しくはお問い合わせください。
お問い合わせ：入試広報課 tel 0120-963-323